

ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見

意見提出元	株式会社中国放送
-------	----------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望	<p>ワイヤレスブロードバンドの発展は国民生活の利便性の向上につながり、そのための周波数逼迫対策は重要課題だと考えています。</p> <p>I T Uの世界無線通信会議で3.4~3.6GHzがI M Tに特定されたことを踏まえて、第4世代移動システムの導入のための周波数の割り当ての検討が推進されていると認識しています。</p> <p>その中で、地方局を含めて放送事業者はこの帯域の固定局などを別のマイクロ帯へ移行し、I M Tの円滑な実現のために、周波数の返還作業の検討を進めているところです。</p> <p>また、電波政策懇談会の報告書でも述べられていますように、無線メディアの一つとして「デジタル放送」が「ブロードバンドワイヤレス分野」として位置づけられていることは、我々放送事業者もワイヤレスブロードバンドの発展に寄与していると考えられている証拠であり、トラヒックの超高速化と大容量技術化等の進展により、今後も更なる発展に貢献していけるものと考えます。</p>
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題	<p>3.4~3.6GHzに加え、アナログ放送終了後に730MHz~770MHzも携帯電話等の移動通信に割り当てられることとなっています。</p> <p>この周波数帯には上記の「ブロードバンドワイヤレス分野」の一翼を担う放送関係用も含む各種業務用無線システムが近接しており、その共存条件の技術検討が早急に進められることが必要と考えます。</p>
(3) 関連する国内外の動向と課題	<p>周波数の割り当てにおいては、携帯電話や無線LANなどのモバイル系だけでなく、放送業務用の無線システムの更なる発展や高度化も社会全体の利益につながるものですので、配慮を要望します。</p> <p>放送業務用の800MHz帯の映像F P Uは波長が長いので、見通し外伝送が可能で、建物などの遮蔽物が多い場所での伝送や、移動しながらの中継などにおいて、その威力を発揮します。</p> <p>S H F帯の映像F P Uでの伝送が無理な場面でも確実な伝送を行うことができるため、報道中継や駅伝などのスポーツ中継などテレビ番組制作で幅広く使われるため、我々地方の放送事業者にとっても必要不可欠な無線設備です。</p> <p>また、これに代わるシステムは他にありません。</p> <p>更に、特定ラジオマイク・デジタル特定ラジオマイ</p>

	<p>クと周波数を共用しており、運営調整を行うことで、干渉による妨害を未然に防ぎ、周波数の有効利用も図っています。</p> <p>無線局数やその使用頻度は少ないものの、地方局がその社会的役割を十分果たすためにも周波数の割り当てには考慮する必要があります。</p> <p>また今後、現在の帯域のまま、低遅延で高画質なHD伝送技術が制度整備されると、更なる有効利用が望めます。</p>
<p>(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項</p>	